



2022年度 地域おこし協力隊活動報告

三崎

一般社団法人倶知安観光協会（～2022）

倶知安町観光商工課 観光係（2023～）

2023年4月14日

簡単な自己紹介

出身：北海道弟子屈町（道東出身）→高校まで弟子屈、大学は東京へ

➤ 航空会社
地上係員@羽田空港

➤ 下着メーカー
マーケティング、営業戦略・分析、予算関連、人事関連

➤ JICA（国際協力）
プログラムオフィサーとして研修プログラムの企画・運営・評価

➤ 北大（大学）
学術研究員として自治体の観光マスタープランづくり等

➤ メルボルン大学大学院博士課程（現在在籍中）、北大Cats研究員
地方自治体（特に観光地）における住民参加について研究

地域おこし協力隊の業務（募集時）

2021年11月より一般社団法人倶知安観光協会にて勤務（札幌から）

業務概要

一般社団法人倶知安観光協会（地域DMO）での業務となります。

（主な業務）

1)観光地のマーケティングやブランディング（情報発信、統計分析、需要把握など）事業運営など。

2)各事業実施に必要な申請手続きなど。

3)地域行事やイベント企画、運営及び各種団体への支援やお手伝い

※隊員の職務や経験に応じて業務内容を決定します。

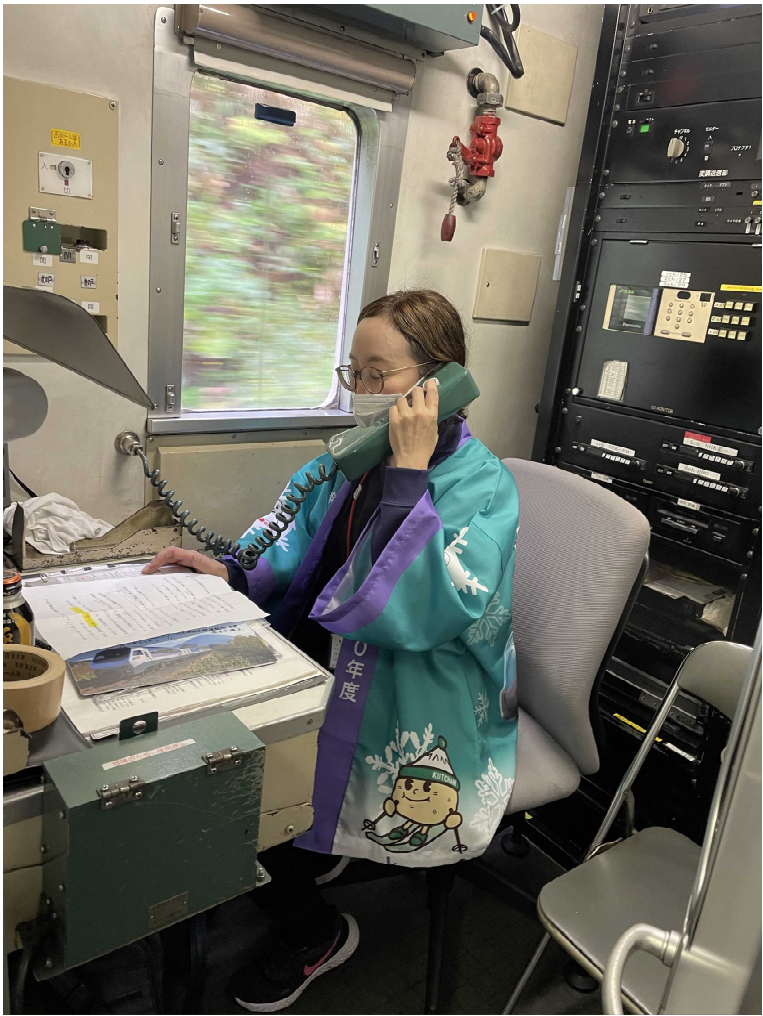
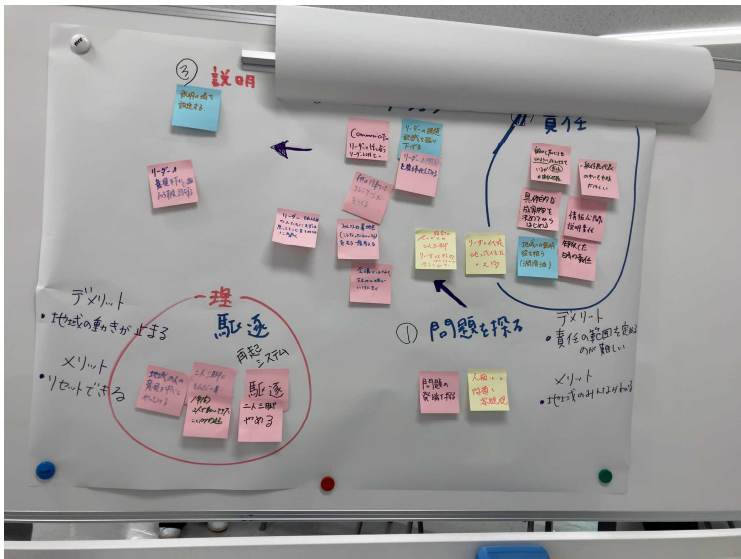
何をしたいか（面接時）

住民の住民による住民のための観光・地域づくり

1. 長期的なビジョンで
2. 地域住民主体の
3. 地域住民のための

- ❖ 打ち上げ花火、専門家やコンサル任せ、観光客&投資家だけ？
- ❖ オーバーツーリズム、住民参画、環境問題、エネルギーetc...
- ❖ 大学院の研究（フィールドワーク）も兼ねて







Center for Advanced Tourism Studies
HOKKAIDO UNIVERSITY



北海道大学

Online Forum 10



By Citer-Free-Vector Images/Pixabay

北海道大学 観光学高等研究センター 第10回 2022年度 第1回) オンライン観光創造フォーラム

観光地から日本の民主主義について考える

近年、世界各国や日本国内で民主主義の危機が話題に上ることが多い。実は、こうした危機は、地域で直面する課題とも大きく関連しており、インバウンド観光の動向や地域政策の内容にも直結する。では、こうした民主主義の危機は、地方の地域社会・観光地域において、とりわけ、人々の地域社会への参加や責任という面で、どのような影響を与えているのだろうか？講演者は、これまでこうした問題意識に基づき一連のフィールドワークを行ってきた。そこから見えてくるのは、私たちの生活自体が極めて政治的であるということである。今回の講演では、民主主義、そして政治が、観光とどのように関係するのか整理するとともに、こうした文脈を踏まえつつ、私たち自身がどのような実践を通して地域を、そして社会を築いていくべきなのか、あらためて考えてみたい。

2022年5月27日(金) 16:30 ~ 18:00
定員 50名 | 先着順 | 参加無料

オンラインで開催します。参加にはzoomでの接続が必要です。

主催・お問い合わせ
北海道大学観光学高等研究センター online-forum(at)oast.hokudai.ac.jp
※お申し込みの際に書き添えてご返信ください。※お申し込みの際は、事前登録フォームについてご確認ください。

詳細情報・参加申込みはこちら



詳細情報・参加申込み https://zoom.us/joiner/register/WN_eo5NtL-RDW9fVumZZWx0Q



An initiative of the Asia Institute
ISSN: 2652-550X

MELBOURNE
ASIA REVIEW

Home Editions ~ About Contribute Podcast Translations

Erosion of democracy? The case of Niseko, Japan

Riyomi Misaki





Democracy is being eroded in Japan. Top-down and centralised regional policy, promoted since the administration of Junichiro Koizumi from the early 2000s and continued under successive subsequent prime ministers, especially the late Shinzo Abe, has undermined participation and responsibility at the grassroots level.

Guest Contribution: Working for chiiki okoshi kyōryokutai: Thinking about community and culture in a tourist destination in Hokkaidō

Posted on 2022-09-23 by Cornelia Reiher

by Kiyomi Misaki

Last November, I started to work for a local tourism association in Niseko in northern Japan as a local revitalization cooperator in the *chiiki okoshi kyōryokutai* program initiated by the Ministry of Internal Affairs and Communications to encourage people from cities to move to and settle in rural areas and to engage in community activities. It is a countermeasure against the overconcentration of the population in Tokyo and the outflow of the rural population. I am doing fieldwork while working for Kutchan Tourism Association (KTA). Through my fieldwork and working for KTA, I am currently thinking that an economy-oriented climate may undermine the local community and local culture.

It may be confusing that Niseko does not technically have the definition of a region, and people first come to mind is a mountain area in Kutchan town when they hear the name Niseko. For that reason, Niseko in this article means Kutchan town. Niseko, with a population of 15,000 people, is a tourist destination known for powder snow in winter, attracting skiers and snowboarders from all over the world. The mountain area in Niseko has been redeveloped since the late 1990s by Australian entrepreneurs. Since the season in Australia and Japan is opposite, some Australians enjoy skiing and snowboarding throughout the year, going back and forth between Niseko and Australia each winter. Since 2014, the proportion of Australians, which accounted for half of all visitors, has gradually decreased and visitors from Asian countries such as Hong Kong, Singapore and China have increased instead.

活動の成果

ネットワーク構築

- 山岳ガイド&アウトドア関連の人材
- フットパス仲間
- 環境問題に関心がある人たち
- 自治体の枠を越えた協力隊（倶知安町、ニセコ町、仁木町、余市町、その他）
- 国内外の研究者（北海道、東京、大阪、ドイツ、イギリス、オーストラリア等）

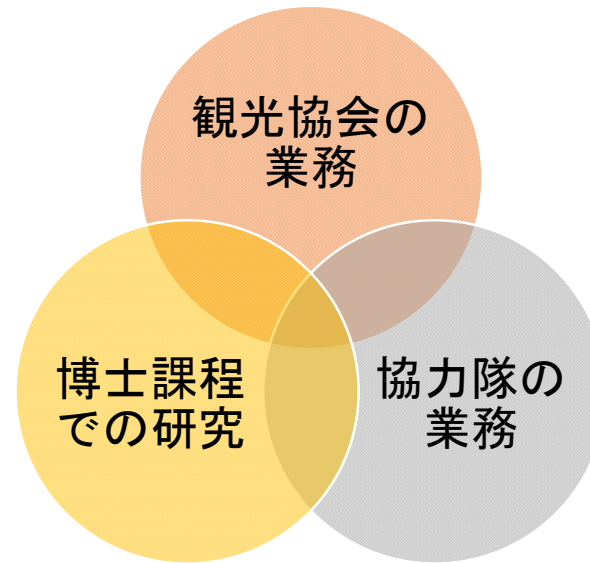
多様性の外部への発信

- メディアが報じない地域の多様性
- 観光だけでない地域
- 山だけでない観光
- 声の大きい人だけでない人々の暮らし
- 町や観光のあり方に対する様々な意見

様々な発見

- 観光／地域づくりの課題
- 自分の意見を表明することの大切さ→そしてその結果
- 住民参画の多様な形
- 他地域の協力隊の地域との関わり方
- 国際リゾートといいながら国際標準に合わない様々な体質や家父長制が根強く残る組織体制？

活動の限界



地域は多様、協力隊は微力、
個人でできることは限られてい
る
＝協力隊という役割の難しさ

協力隊という役割を最大限活
用できたら良かった
＝組織に拘束され過ぎた？

研究者という肩書きはコンサルで
ない限りあまり必要とされない
＝意思決定の場にどうしたら参
画できるか

今後の展望

まだ定まっていないが...

地域に「公共」の場を作る

老若男女、バックグラウンド問わずみんなが集まれる場をつくる

➤ ハコモノだけでなく、そのような空気も作りたい

施設を作るorそれを管理するor町内の人&外から来る人が自然と集まれる場所、
ゆくゆくは移住・定住の相談、市民の活動の相談に乗るetc...

長期的で継続的な活動が必要、ゆるくつながることも視野に

ありがとうございました